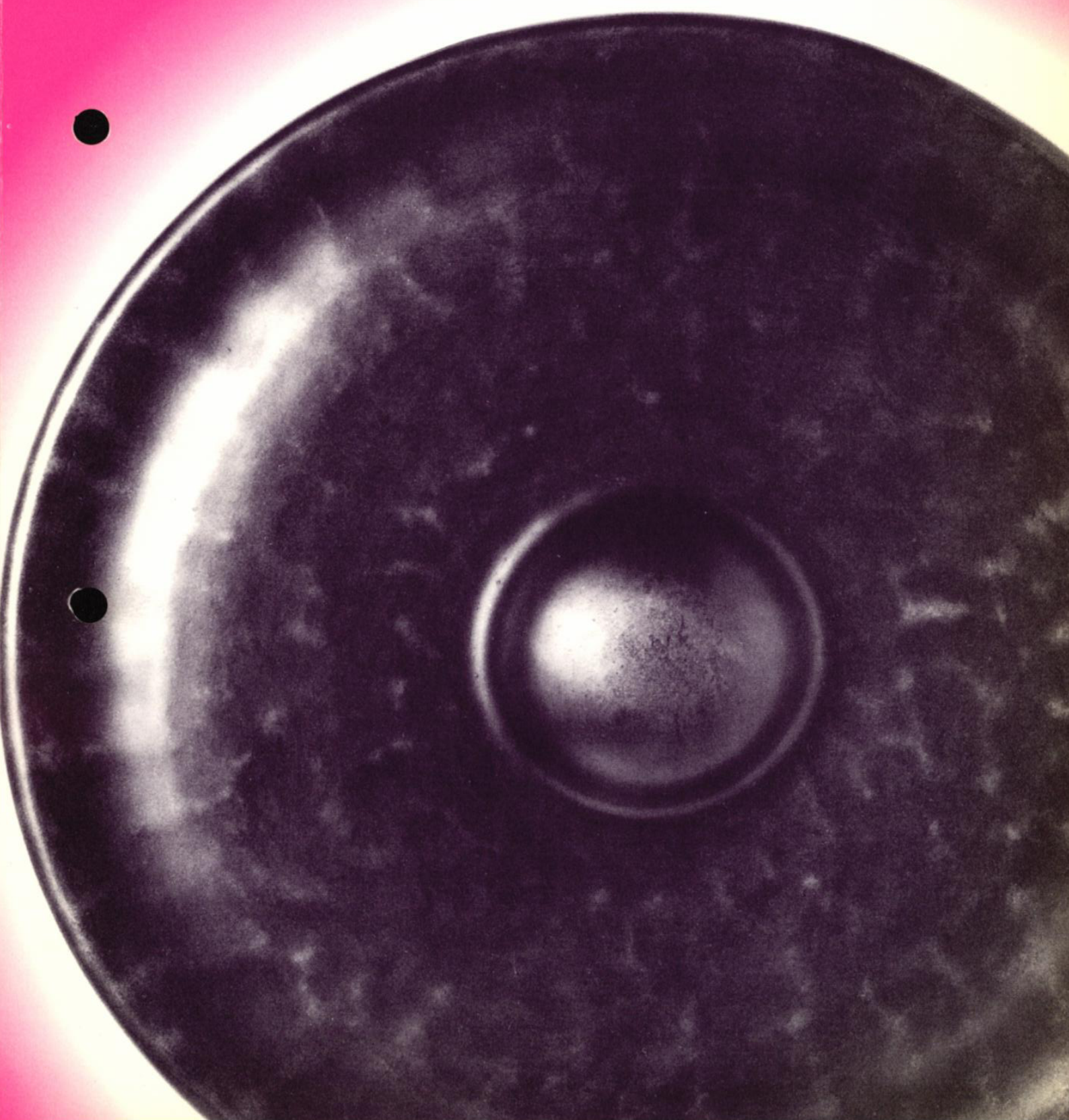
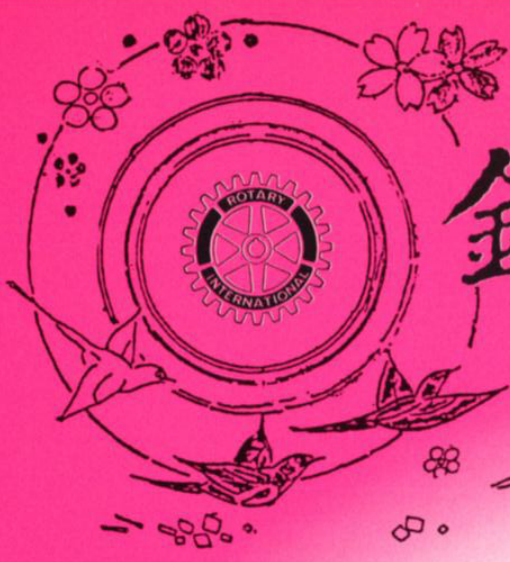


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1996年2月22日 第553号

金澤北ロータリークラブ



仕事に誇りを

高 畠 菊 丸



私が北RCに入るきっかけになったのは、15年程前韓国南光州へ少年サッカー（大徳チーム）がRC交流事業の一環として行く事になった時、私の長男がメンバーの中において、私も育成会々長として同行した事に始まります。その後南光州との交流が今日まで続いている事は皆さんもご存じの通りです。

さて、私の事にもどりますが、その後木下会員より、韓国との交流も無事終わった事でもあるしこれを機会に入会したらどうかという話がありました。ロータリークラブについては話しには聞いていましたが、私には無縁の団体だと思っていましたので、何度もお断りしてはいたのですが、再三のお誘いについて負けて入会する事になりました。今迄の人生の中でも人との出会いを特に大事に思って来ましたので、素晴らしい人達が集まっているロータリークラブに入り、新しい人との出会いが多く持てる事を心よりうれしく思っています。

さて人間高畠菊丸の自主申告ですが、昭和20年（1945年）4月酉年生まれです。99パーセント戦後育ちですが、戦前としては最後の年に生まれています。人数のもっとも少ない年代でもあります。どの時代でも「おまえらはのんびりしたもんばかりやなあ」とか「やる気はあるのか」とか言われてばかりだった。自分で云うのもおかしいが実に競争心の薄い世代だと思います。それでもなんとかガンバッテ生きています。

職業分類の警備業を始めたのは昭和57年からですが、現在の会社を始めて3年目になります。石の上にも3年と云いますがやっとスタートラインについたとこのようなものです。

東京オリンピックをきっかけに急に成長して来た警備業界も人による警備から機械に依る警備へと変わってきました。そこで警備機器の発達はめざましいものがあります。特にここ10年間というのはコンピューターや端末センサーの開発は素晴らしいものです。しかし機器の研究をしているのは我々だけでなく、入る泥棒の側も日夜研究しているようなので、次々と新しい機器を作り出さなければならぬので大変です。

ともかく早いテンポで進歩している現代にあって毎日が前向きに歩いていないと、すぐ時代遅れになってしまいそうな今日この頃ですが、社会性の高い仕事に誇りを持って今日も一歩ずつ歩んでいます。



「石臼文様」 坂口幸市会員作

グアム旅行記

—ゴルフ部会有志—

玉田 善明

2月1日、私達クラブメンバー8名を乗せたしらさぎ10号名古屋行き電車は数分遅れで粉雪降りしきる中、金沢駅を無事出発しました。メンバーそれぞれの胸中は、先程までの雑事をきれいさっぱりと忘れて、最早グアムの眩しい太陽光線に注がれていました。しかし現実のギャップにはいかんともしがたく、皮コートを急遽買いに走る人、コートの下には夏物の服装、面倒臭くて夏物の服装そのまま震えている人と、それはそれは様々でありました。

午後7時40分、ノースウエスト航空58便は我々8名の夢を乗せ一路グアムへと旅立ちました。機内サービスのビール、ワイン、カクテルと、手当たり次第順次消化し、且つ全員禁煙を我慢しながらグアム国際空港に真夜中に無事到着しました。バスにてグアムホテルオークラに到着後は、すぐにルームインして次に控えるゴルフコンペの調整と成りました。若干3名は、朝5時30分迄興奮を押さえ切れず、且つ年甲斐もなく飲み明かしました。さて南国の強烈な太陽が燦々と輝く朝、目を赤くした3人と、休養たっぷりの5人の満を持した面々がマンガラオゴルフクラブへと出発しました。エメラルドグリーンに染まる南太平洋、打ち寄せる白い波をすぐ横に見ながら、マンガラオは私達を待っていてくれました。美しい多彩な南国の花々の下、夢のような景色のもとでメンバーは思う存分その実力を発揮出来た事は言うまでもありません？当然、時々大きなわめき声の後に『ここは初めてのコースだからしかたがないか』との慰めの声も聞こえてきました。ともあれ、当日はめでたく寝不足を克服した越田会員がネット76のスコアで優勝されました。優勝の栄誉と参加者の苦労を讃え、紹興酒にほんのりと酔いながら中華料理に舌鼓を打ちました。その席には、グアムホテルオークラの総支配人で金沢出身の橋場さんも同席され、グアムロータリーとのバナーの交換をしました。橋場さんは松本、米沢、小杉会員の高校時代の同級生で、それは古い々化石の様な話に花が咲きました。休養十分の全メンバーは翌日タラホリゾートにての第2ラウンドに臨みました。若干山岳コースの設定でOB杭がやけに目立ちプレッシャーの多い難コースを制したのが、ネット64のスコアを樹立した、何と私でした。総合優勝も合わせて勝ち取り、皆さんのやっかみ半分、驚き半分の冷やかしの受けながらも楽しい一日と成りました。当日は、会話の中身がほとんど冗談で構成され、笑い声が絶えない素晴らしい晩餐会が開かれました。その後、及び翌日は潜水艦に乗ったりいろいろと、今回お世話されました松本会員のご指導のもと、グアム観光を満喫した事は言うまでもありません。日焼けを気にする岡田会員、食欲旺盛元気一杯の渡辺会員、多くのゴルフボールを持って来てくれた大沢会員とそれぞれが少しずつ目立っていました。多くの楽しい、又は楽しくなかったかもしれませんが？思いで多いグアムの旅は来年も再度挑戦しようと堅く誓って無事終了致しました。その前にもう一度私の腕が本当かのチェックが今年の春に入る予定も成立致しました。



